

浄るりシアター  
(能勢町)

みゅ〜  
ザ・見遊じあむ

45

芝居小屋をイメージして創られた建物  
500人が収容できるホールがあります

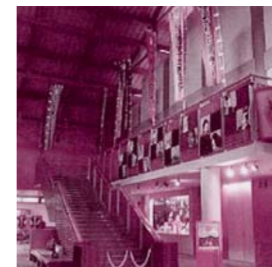


「大阪の奥座敷」とよばれている能勢町では、江戸中期の文化年間から200年間にわたって浄瑠璃文化が伝えられています。能勢の浄瑠璃は、世襲制と異なり「おやじ」と呼ばれる独特の伝承制度を持っています。「おやじ」にあたる大夫が町民を対象に弟子を5〜6人養成し、そこで育った「おやじ」が周りの町民に浄瑠璃を伝承します。農閑期に師匠からマンツーマンで稽古を受け、代々受け継がれてきた語り手は、現在でも町内に200人いると言われています。1993年に大阪府より無形民俗文化財の指定を受けました。2006年には町制施行50周年を記念して「能勢

200年の歴史をもつ  
郷土浄瑠璃を上演

人形浄瑠璃・鹿角座(ろっかくざ)が旗揚げ。2008年からは「こども人形浄瑠璃」も上演されています。町の施設「浄るりシアター」では毎年、鹿角座による浄瑠璃の公演があり、今年は6月20日(土)、28日(日)に催されます。庶民によって創られ、伝承されてきた郷

土浄瑠璃を楽しんでみるのもいかがでしょうか?



ロビーでは写真やパネルで浄瑠璃の歴史を紹介

ミュージアムメモ

▶所在地/大阪府豊能郡能勢町宿野30番地▶交通/能勢電鉄「山下」駅下車。阪急バスで約30分「能勢役場」前下車すぐ▶人形浄瑠璃「鹿角座」公演/6月20日(土)・28日(日)ともに午後2時開演(開場は午後1時30分)▶チケット/一般2500円、中学生以下1500円(当日各500円増)、能勢浄るりシアター各プレイガイドで発売中(詳しくは能勢町ホームページをご覧ください)▶問い合わせ/電話072-734-3241

「劔岳・点の記」



地図測量に  
命を賭けた生涯

多くの山岳小説を書いた新田次郎の同名小説が原作の映画です。山好きの読者なら、北アルプスの劔岳はご存じでしょう。劔岳は日本の山岳でも屈指の岩の殿堂です。明治の近代日本、さまざまな産業の育成とともに、正確な日本地図製作は急務の仕事でした。その仕事にあたったのは旧日本陸軍の陸地測量部。地図の作成には現地測量はかせません。三角測量という技術で、全国各地を大小の三角形で測量し、角度と辺の長さから距離や高度をもとめていく方法。そのために、全国各地の展望のいい山々の

ほとんどが踏破され、山頂には測量のやぐらが組み立てられ、測量された地点は三角点として標石が埋め込まれました。険しい山々も、陸地測量部のメンバーがつきつきと登頂をはたしました。そして、最後に残った山が、前人未踏の劔岳でした。1907年(明治40年)7月、陸地測量部の柴崎芳太郎ほか数人が、困難を極めて劔岳山頂を踏んだところ、山頂には山岳仏教で使う錫杖と劔が奉納されており、それは何と1000年以上前の奈良時代のものでした

映画はこの日本の地図作成の秘話を描いています。三角点を設置した記録が「点の記」です。読者のみなさんも夏山などで山頂で三角点を見かけたことがあるでしょう。彼らの命がけの仕事によって、いま私たちが地図をもつて安全な登山ができるのです。今年の夏山はきつと劔岳が大賑わいになるでしょう。

このシネマ

がえいび

大阪の戦跡を歩く

第44歩

「おかあちゃん  
ごめんね」

(堺市)



絹ちゃんが空襲で身を寄せた英彰小学校

に入ったまま内側から鍵をかけてしまいました。「お母ちゃん、ごめん助けて!」と外から泣き叫んでも、お母さんは戸を開けません。まわりは火の海となり、絹ちゃんは近くの小学校に身を寄せますが、お母さんは黒こげになって死にました。この絹ちゃんの実体験が、作家・早乙女勝元さんの絵本「おかあちゃん、ごめんね」(草土文化刊)となって語り継がれています。

1945年7月10日は堺で大空襲のあった日です。堺市の寺地町に住んでいた絹ちゃん(浜野絹子さん・当時6歳)のお母さんは、子育ての疲れと栄養失調で重い病気になり、ほとんど動けなくなっていました。空襲で家に火がついて傾きかけた時、お母さんは自分から離れようとしないうちに絹ちゃんたち子ども二人を外に押しやり、自分は家の中

津河内  
和泉  
三國誌  
おおさか

45  
(大阪) 市区

緒方洪庵と「適塾」  
「医の世に生活するは人の為」と  
庶民に尽した医師・蘭学者

江戸末期の医師・蘭学者、緒方洪庵(1810~1863)は、大阪で私塾「適塾」を開学し、多くの人材を育てました。岡山の下級藩士の三男として生まれた洪庵は、少年時代に流行したコレラの惨状を見て「人々の病苦を救済したい」と17歳で大阪の蘭方医に入門。江戸、長崎でも学び、大阪で開業して庶民を診療するとともに、蘭学塾を開学しました。「医の世に生活するは人の為のみ、おのれが為にあらずといふことを其の業の本旨とす」というドイツの医師・フーフェランドの言葉を座右の銘とし、種痘やコレラ治療にも力を注ぎました。「適塾」には全国から塾生が集まり、その数は3000

適塾のそばに建つ洪庵の像



「適塾」の名は洪庵の号「適々齋」が由来

人と言われています。福沢諭吉、大村益次郎、橋本左内、大島圭介など、幕末、明治維新に活躍した多くの人材がここで学びました。洪庵はその後幕府に召し出され、再三固辞しましたが、断り切れずに将軍を診察する奥医師になりました。しかし江戸では心労が重なり10ヶ月後に咯血で死去、54歳の生涯を終えました。「適塾」の建物は淀屋橋に現存しています。塾生が一人畳一枚の広さで寝泊まりし、昼夜を分かたず勉強した大部屋、翻訳を学ぶために塾生が奪い合っていたオランダ語辞書(ツーフ)、遊びで刀の切れ味を試した柱の傷跡などが残っており、激動の時代に、若いエネルギーをみなぎらせていた塾生たちの息吹を感じさせます。

川の流れのように

美空 ひばり

今年(2009年)6月24日は、歌手・美空ひばりさん(1937~1989)の20年目の命日です。「川の流れのように」は生前最後に発表されたシングル曲。美空さんが歌った数々の名曲の中でも、最も幅広い層に親しまれ、歌われている曲のひとつです。作詞は秋元康で、ニューヨークに流れるイーストリバーを見て書いたといわれています。

いまも心に響く  
名詩・名歌・名語録

他人を感動させようとするなら  
まず自分が感動せねばならない

ミレー

フランスの画家、ミレー(1814~1875)は、「晩鐘」や「落穂拾い」で知られていますが、作品が画壇で評価されたのは死後のこと。彼が心を動かされて描き続けたフランスの農民生活という題材は、当時の画壇には受け入れられませんでした。しかし、彼が感動して描いた作品は、時代を超えて、現代の私たちに感動を与えています。